

■1月のおすすめ本

皆様、あけましておめでとうございます。というにはいささか遅すぎる気もいたしますますが、うちで過ごす機会が多い今こそ、じっくり本を読んでみませんか？

※図書室にあります	(図書委員のおすすめ)		
	ガラスのうさぎ		
	高木敏子	P189	小説
	金の星社	1977年	
<p>終戦を背景に、主人公の幼い少女の視点から戦時中の日本を描いています。戦争による家族の苦難や日常生活の変化を体験しながら、友情や愛情を育んでいきます。ガラスのうさぎは彼女の心の支えとなり、辛い時期を乗り越える象徴的な存在となります。高木敏子さんの実体験を基にしたこの物語は、涙なしでは読めません。ぜひ読んでください。</p>			

※図書室にあります	(図書委員のおすすめ)		
	人間みたいに生きている		
	佐原ひかり	P225	小説
	朝日新聞出版	2022年	
<p>食べるという行為そのものに嫌悪感を抱いている三橋唯。唯が全く食べ物を口にできずに、食べ物を無理矢理口の中に入れては吐く、入れては吐くを繰り返す唯。好き嫌いでも痩せたいという気持ちでもないので、両親にも友達にも理解されません。血しか飲めない泉の他にも気付けてくれる友人が出てきて、唯は少しずつ食べられるようになると、自分の状況を分かってもらおうとします。そんな唯の気持ちの変化、人と違ってもあるがままでいいとなったこと、泉や他者に対しても同じようになったことが印象的です。</p>			

※図書室にあります	(図書委員のおすすめ)		
	はらぺこあおむし		
	エリックカール	P25	絵本
	偕成社	1976年	
<p>私は今までこの本を深く考えずに読んでいたのですが、深く理解して読んでみると意外と一つの人生としての物語に見えてきました。例えば最初あおむしが生まれた葉っぱも小さく見えますが、生まれたあおむしにとってはとても広くおもえたでしょう、私たちにとっては地球が一番当てはまっていると思います。そしてそのあとあおむしはたくさんの食べ物を食べ、おなかを壊して苦しみますそのあと葉っぱを食べ元気になり成長したあおむしはさなぎになり蝶になります。これを私は知らないものに触れることは成長することだと思いました。そしてそれを繰り返すことで大人になれるんだなと思いました。もしかしたら私の人生もこの絵本のように短いのかなと思いました。</p>			

※図書室にあります	(図書委員のおすすめ)		
	ないた赤おに		
	浜田廣介	P48	絵本
	金の星社	2005年	
	この本は寂しい赤鬼が人間と仲良くなる話です。うまくいかずあきらめようとしたときに青鬼が協力をしてくれくれます。そのおかげで人間と仲良くすることに成功したが青鬼の姿を見かけなくなったことに気づいた赤鬼、急いで家へ行って見たもののそこには誰も居らず…何に対しても犠牲はつきものだと改めて実感する話でした。		

※図書室にあります	(図書委員のおすすめ)		
	ラットマン		
	道尾秀介	P48	小説
	光文社	2008年	
	普段生活している中で、いま見えているものだけが本当でないことは多々あります。また、自分にはよく見えても相手には悪く見えることもあります。道尾秀介さんの作品にはいつも「やられた！」と感じます。作品を読む中で複雑な人間関係の裏側や見えかたの違いを感じて、物語終盤で「騙された！」と思ってもらえたら幸いです。		

※図書室にあります	先生のおすすめ		※図書室にあります
石神先生のおすすめ		小杉先生のおすすめ	
<p>様々な時代の哲学のプロが「恋愛とは何か」を真剣に考えています。「クズだとわかっていても好きになってしまうのはなぜ?」「恋愛のゴールは結婚なの?」現代の私たちも思わず考えてしまうテーマがたくさんあります。恋愛関係の本は「恋愛とは〇〇だ!」といいきることが多いですが、この本はそのような押し付けはなく、むしろ「恋愛」というものの意味を広げてくれます。言い回しがやや難しいですが恋愛第一の人も、恋愛に興味がない人たちもためになる本だと思います。</p>		<p>美味しい食べ物、きれいな景色、そして温泉! 田方農高校に赴任して、2年が経ちました。日本を代表する観光地でもある伊豆半島は魅力あふれる素敵な地域だと日々感じています。この間、伊豆半島のいろんなところをまわり、函南町の丹那断層、伊豆市のワサビ田、伊東市の大室山、下田市の白浜海岸、沼津市の戸田地区など、多分一生忘れない、素敵な景色や地域に出会ってきました。いまでこそ本州に位置する半島ですが、かつては伊豆ははるか沖合にある南の島でした。南の島がどのように本州に近づいてきて、今の形になったのか。伊豆の綺麗な山々はどのようにして生まれたのか。この本には伊豆半島の生い立ちがわかりやすく書かれています。この本を読めば学校の窓から見える景色が、少し違って見えるようになるかもしれません。興味があれば、ぜひ読んでみてください。</p>	
	『恋愛の哲学』		
	戸谷洋志		
	晶文社		
	2024年		
	P236		
		『伊豆の大地の物語』	
		小山真人	
		静岡新聞社	
		2010年	
		P303	